

大会特別記念講演

10月13日(日) 11:00～12:00 第1会場 | 下関市民会館 1-2階 大ホール

座長：中原 靖明 (一般社団法人 山口県薬剤師会 会長)

獲得免疫の驚くべき幸運

本庶 佑¹

1: 2018年ノーベル生理学・医学賞受賞 / 国立大学法人京都大学高等研究院 副院長・特別教授 [京都府]



獲得免疫は、脊椎動物が微生物などの外敵から身を守るために進化した。この進化の過程で、遺伝子断片をつなぎ合わせてゲノム情報を多様化するという、実に巧妙な仕組みを偶然獲得した。1992年私達はPD-1と遭遇し、これが免疫のブレーキ役を担うことを見出し、2002年には動物モデルでPD-1阻害によってがん治療が可能であることを発見した。PD-1発見から22年の歳月を経て、がん治療のペニシリンとも称される新しい画期的な治療法として結実した。ペニシリンに続いて発見された多くの抗生物質により人類が感染症の脅威から解放されたように、今後はがん免疫療法が改良され、がんによる死を恐れなくてもすむようになるだろう。PD-1阻害によるがん治療の成功によって、感染症に向けての武器であった免疫力が、がんに対しても防御力となると気がついたのは二重の意味で幸運だ。人類の病との戦いの中で前世紀は感染症、今世紀はがんが最大のものと言われてきたが、この二つの疾患を人類が克服できる基本原理を獲得免疫が担ったとは、驚くべき幸運である。

【略歴】

<最終学歴>

昭和46年 京都大学大学院医学研究科修了

<職歴>

昭和46年 米国カーネギー研究所発生学部門 客員研究員
昭和48年 米国NIH (NICHD分子遺伝学研究室) 客員研究員
昭和49年 東京大学医学部助手 (栄養学教室)
昭和54年 大阪大学医学部教授 (遺伝学教室)
昭和59年 京都大学医学部教授 (医化学教室)
平成7年 京都大学大学院医学研究科教授 (分子生物学)
平成8年～12年 京都大学大学院医学研究科長・医学部長
平成11年～16年 高等教育局科学官 (文部省) (併任)
平成14年～16年 京都大学大学院医学研究科長・医学部長
平成16年～18年 日本学術振興会学術システム研究センター所長 (併任)
平成17年 京都大学大学院医学研究科寄附講座特任教授 (免疫ゲノム医学講座)
平成18年 京都大学客員教授 (免疫ゲノム医学講座)
平成18年～24年 内閣府 総合科学技術会議 議員
平成24年～29年 静岡県立公立大学法人 理事長
平成27年 公益財団法人 神戸産業都市推進機構 (旧先端医療振興財団) 理事長
平成29年 京都大学高等研究院 特別教授
平成30年 京都大学高等研究院 副院長/特別教授

<受賞等>

恩賜賞・学士院賞 (1996)、文化功労者 (2000)、米国科学アカデミー外国人会員 (2001)、ドイツ自然科学者アカデミー・レオポルディナ会員 (2003)、日本学士院会員 (2005)、ロベルト・コッホ賞 (2014)、文化勲章受章 (2013)、唐獎 (Tang Prize) (2014)、京都賞 (2016)、慶応医学賞 (2016)、ノーベル生理学・医学賞 (2018) など多数。